

昨年12月に着工した小田原市の物件外観パース
日当たりの良い南向きの屋根に太陽光パネルを設置している



「海のリジャーを楽しむみたい」というのがポイントだったという。近年モーターカーが普及し家で仕事をするケースが増えたが、小田原であれば都

心へのアクセスは一時間半程度。十分に通勤も可能だ。秦野市の物件は、丘の上に建てられ、山々を望む絶好のロケーションを誇る。

独自のノウハウにより最適地を選定 理想のライフスタイルをかなえる

「我々が目指すのは、ライフスタイルのチェンジです。都心のマンションや小さな2階建てに住むより、郊外の電気代ゼロでバリアフリーの平屋に住めば、ロケーションに合わせて充実した毎日を過ごすことができると思っています。一生安心して暮らせる家を作るのです」と石村氏は強調する。

SunSunHouse株式会社 (旧:株式会社globe a cloud)

2018年創業。不動産買取(査定)、不動産売買仲介、不動産コンサルティングなどを手がけるが、主軸となるのがZEH(ゼロ・エネルギー・ハウス)住宅の開発・販売と太陽光+蓄電池の企画提案。郊外に太陽光パネルを登載した平屋を郊外に建設し、電気代のかからない暮らしを5000万円程度で提供する。ビジョンとして掲げるのは、「住宅ライフプランナー」。電気代の不安のない生活、そして趣味・嗜好に合わせたロケーションの中で、理想のライフスタイルを実現させる。「自分らしい生き方」を求める人々のニーズに添えている。

「住宅ライフプランナー」をビジョンに掲げ

太陽光パネルを搭載した平屋を建設 電気代ゼロを実現し、豊かなライフスタイルを提案する

エネルギー問題が大きな課題となっている中、SunSunHouse株式会社が提唱するのが、太陽光パネルを活用したZEH(ゼロ・エネルギー・ハウス)だ。60坪の土地に30坪の平屋を建て、太陽光パネルを搭載する。これにより電気代ゼロの暮らしを提供する。しかし、そのための土地探しは容易ではない。同社では、独自のノウハウを蓄積。「住宅ライフプランナー」として、「ライフスタイルのチェンジ」を提唱する。その具体例などについて、代表取締役社長CEO・石村和希氏に話を聞いた。

平屋により必要以上の電力を発電 バリアフリーにも対応

SunSunHouse株式会社の代表



SunSunHouse株式会社代表取締役社長CEO・石村和希氏

取締役社長CEOである石村和希氏は、かつて在職していた株式会社JT B時代は、法人営業を担当。国内外を飛び回り、再生可能エネルギーで先を行くヨーロッパ諸国の取り組みを目にする。その経験の中で、日本の自然豊かな環境を守るには、再生可能エネルギーの活用が重要であると考えようになる。そこで着目したのが、太陽光だった。

同社が提案するのは、郊外の60坪の土地に建坪30坪程度の戸建て住宅。しかも、すべて平屋だ。それを5000万円以下程度で提供する。石村氏は語る「2階建ての場合、太陽光パネルの月間発電量4kWh(キロワットアワー)※程度です。しかし平屋に太陽光パネルを登載すると、月間10kWhほどの発電量にまで高められる。必要十分以上の発電量を確保することができま

全戸サウナを設置 手が届く価格で豊かな毎日を提供

平屋にこだわるもう一つのメリットは、バリアフリーだ。2階建て住宅では、バリアフリー化は困難を伴う。最初から平屋であれば、容易に対応可能となる。つまり、生涯にわたって安心して暮らせる住宅となる。

建坪30坪の平屋に積んだ太陽光パネルは、年間約1万7000kWhを発電する。4人家族の場合、年間電気消費量の平均は、約5500kWh。年間約1万1500kWhの余剰電力が発生する。蓄電池を活用することで、その余剰電力を豊かなライフスタイルを実現するために利用できる。たとえば、同社が提案する物件では、全戸にサウナを設置。いわゆる「整う」生活をいつでも楽しむことができる。電気自動